

ALS阻害剤交差抵抗性イヌホタルイの防除法

スルホニルウレア（SU）抵抗性雑草にも効果が高い新規のアセト乳酸合成酵素（ALS）阻害剤（プロピリスルフロン・ピリミスルファン・ペノキススラム等）が急速に普及している。

しかし近年、ALS阻害剤に対しても抵抗性を示す（以下、ALS阻害剤交差抵抗性）雑草の発生が認められており、県内でもALS阻害剤交差抵抗性イヌホタルイが確認されている。

1 ALS阻害剤交差抵抗性イヌホタルイに対する防除法

新規ALS阻害剤を適正使用したにも関わらず、特異的にイヌホタルイが残草した場合は、ALS阻害剤交差抵抗性であることを疑う必要がある。

その場合は、イヌホタルイに対して効果が高くALS阻害剤と作用機作の異なる成分と、その成分を含む除草剤を使用する。有効成分は下記の通り。

ALS阻害剤交差抵抗性イヌホタルイに有効な成分

ベンゾビシクロン、テフリルトリオン、ブロモブチド、クロメプロップ、シメトリン、MCPB

注 農薬登録は令和8年1月16日現在

2 参考文献

ALS阻害剤交差抵抗性イヌホタルイの確認. 宮城県古川農業試験場・水田利用部. 普及に移す技術第89号/参考資料4 水稻（平成25年度）